

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・ 答申書 (案)
- ・ 分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・ 総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図り PR を行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・ 答申書 (案)
- ・ 分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・ 総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を高めたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。



- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・ 答申書 (案)
- ・ 分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・ 総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図り PR を行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を高めていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにして欲しい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。



・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を高めていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。



# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・ 答申書 (案)
- ・ 分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・ 総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図り PR を行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこその教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・ 答申書 (案)
- ・ 分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・ 総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図り PR を行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。



- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進していただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。



・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。

# 令和3年度 第2回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和4年3月28日(月) 午後6時半  
場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、金子尚毅委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、武田主任、伊藤

**欠席者：**

## 1 開 会 18:30 佐藤企画情報課長 開会・進行

短期間での開催の中、分科会等御協力いただき感謝申し上げます。答申案について様々な意見を頂戴しながら最終的に取りまとめて参りたいと思うため、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

分科会等で様々な意見をいただき感謝申し上げます。分科会で出た意見を元に、事務局でまとめていただいた。最後の振興審議会となるが答申案について意見をいただき最終的に答申をまとめたいと思うためご協力のほどお願ひしたい。庄内町の町政にとって非常に貴重な答申となる為、忌憚のない意見を賜りたい。

## 3 報告事項等

(1) 本日の日程、資料確認について

- ・答申書(案)
- ・分科会議事録

## 4 協 議

(1) 各分科会報告

- ・総務分科会

【加藤容委員】総務分科会では、花のまちづくり事業について話し合いになった。これからも花のまちづくり事業については緑化を意識して高めていくのか、交流人口を目的にしているのか、話し合いにかなりの時間を要した。立谷沢地域では老人クラブへ委託しており盛んに活動していたが、今は事業を行う方も少なくなり委託を今年度で取りやめたとのことであった。この事業を行う目的について根本的に立ち返り今後も議論していく必要があると考えている。次に出た意見として、各公民館が廃止となりコミセン化となるので、その中での町民の動き方、活動の仕方についての話し合いとなった。それから次に高齢者の免許返納についての話し合いとなり、デマンドタクシーの話題にもなり、狩川地域で利用しているとのことであったが、その情報含め周知により力を入れていただきたい等の意見が出た。また、女性の登用率を計画的に向上させていただきたい等の意見や、ライフワークバランスという観点から単身者が肩身の狭い思いをさせないような町づくりにしてほしい等の意見も出た。また、定住促進事業についてテレワークの推進やオンラインの強化を図りPRを行っていくべき等の意見も出た。国際交流については外国人等の人権問題について、人権が守られているか町民の理解度がどの程度なのか話し合いになった。

・産業建設分科会

【吉田勝紀委員】産業建設分科会では、総合戦略については、防災関係では空家の問題や、雪対策の話題にもなった。今年は雪が多かったという事もあり、除雪に関しては高齢者世帯や一人暮らし世帯の方々のために、住民の満足度を高めるためにより一層取り組んでいただきたい等の意見が出た。また、農林業については担い手の育成が切実な課題となっている。農作業のヘルパー制度の普及や、米価の下落に対して農家の自助努力では厳しいため、関係機関からの財政的支援が必要であり、農業従事者の所得を上げていただきたい。商工業・新産業分野の指標については、現在の総合計画では建設業や製造業の数値が盛り込まれていない状況であるが、建設業関係の人材不足については深刻な問題であるため、数値を盛り込んでいただきたい。住宅定住促進については、若者向けに促進を図ることが重要となっている。酒田・鶴岡地区では、個人向け住宅の新築数が増えておりとても好調とのことであり、土地の取得に対して支援を行っているようだ。庄内町も分譲施策や土地取得支援等を推進し移住定住促進を図っていただきたい。商工業についてはデジタル化の促進を図っていただきたい。これからDXを推進していく必要があることから、マイナンバー含め、商工会等とも連携して推進し地域活性化を行うべき。観光面についてはSNSを活用した情報発信を強化していただきたい。まち・ひと・しごと総合戦略については、道の駅の来客数を増やすためにJAFと連携して優待施設として認知度を確保すべきとの意見が出た。また併せて6次産業化の開発も行い強化していただきたい。過疎地域持続的発展計画については、ふるさと納税についての意見が出た。町の特産品の売上向上のために魅力的な返礼品がないと伸び悩むため、商品開発・PRに努める。また、冬のイベントを行ったり、響ホールを活用してのイベントを開催したりなど、若い人たちが活力のある町にしていきたいと思えるような町づくりを行っていただきたい。

・文教厚生分科会

【梅木均委員】文教厚生分科会では、総合戦略については小児科・産婦人科の医療体制の確保については前回に引き続き継続して答申書へ盛り込んでいく必要があるとの意見が出た。また新たに認知症予防の体制整備強化についても意見を盛り込ませていただいた。また、庄内町では健康診断の再検査を受ける人が少ないため、その体制整備を図る必要がある。次に学校教育については、コロナ禍だからこそできる教育体制の整備が必要との話し合いとなった。縮小や廃止等も必要になってくるかとは思いますが、そこも含めて子どもたちを精神的な面で育てていくことがとても大事になってくる。また、伝統芸能の復活についても話題となり、地区で行っていた伝統芸能について映像化等を行い、後世に残していくべきとの意見が出た。まち・ひと・しごと総合戦略については、買い物の際の公共交通等の利用促進を図ることや婚活事業については広域規模の催しのほか団体等を活用したカップリングの場も設定すべきとの意見も挙げられた。今でも行っている事業等もあるがその内容について今一度再検討を行っていただきたい。過疎地域持続的発展計画については、公民館等のWi-Fiの設備環境を整える等の意見が挙げられた。これから人口が減ることは分かりきっているため、学校再編の適正配置等についての問題が絡んでくる。町立幼稚園単位だとなかなか情報交換の機会が少なく、認定こども園を推進して行っていただきたい。その他に、良いもの・商品については庄内町でも作っているがPRが足りないのではないかと意見が出た。身近にいい場所が沢山あるのに子ども達が学ぶ機会が少ないため、実際にいい場所へ足を運んで学ぶことがとても大事である。

(2) 答申書案について

【佐藤道子委員】答申書案の文末について「～されたい」や「～すること」となっているため、統一した方が良いのではないかと。

- 【門松秀樹会長】「～すること」という語尾は意見としては強めになる。それでまとめても問題ないか。
- 文末を統一することで、答申書の意見内容の度合いの差が見えなくなるが、意見等あれば頂戴したい。
- 【吉田勝紀委員】2年前は「～すること」で統一されており、その前は「～されたい」でまとめられているようだ。いずれにしても文末は統一すべきと考える。
- 【渡部菜穂子委員】統一することで事務局として不都合はないのか。
- 【事務局】特段不都合はないため、「～すること」で統一して答申書を作成する。
- 【門松秀樹会長】答申書案に各分科会の名前が記載されているが実際の答申書にも盛り込まれるのか。
- 【事務局】わかりやすいように一時的に記入したものであるため実際の答申書には記載しない。
- 【渡部正委員】答申書案のP5の過疎地域持続的発展計画の(5)の部分について、「人口減少に対する危機感を持ち30年、50年先の未来」との文言があるが、自身の集落では60代以上の世帯が半分以上を占めているため30年、50年先は考えられない。より一層の危機感を持つために10年、20年の中期的なスパンで考えるべきではないか。
- 【渡部菜穂子委員】分科会の際に発言させていただいた内容だが、その趣旨としては、町役場としては計画等を見ても10年先までは見据えているようだが、自身の子どもの将来を考えるにあたって、その先の未来までの見据える必要があるのではないかとこの思いからである。世代が交代した後の視点も含めて挙げさせていただいた。
- 【門松秀樹委員】どちらも大事であることは間違いないが、今回の答申についてはどちらに重点を置くかだと考える。
- 【吉田勝紀委員】庄内町の人口ビジョンを確認すると、2065年まで予測している。長期的な視点及び短期的な視点いずれも取り入れてはどうか。
- 【海藤喜久男委員】人口減少については大変な問題であると認識しているため、両方の側面から見るのが大事になってくる。数値ではなく短期的な視点、長期的な視点との文言を記載してはどうか。
- 【事務局】両方盛り込むことは問題ないため、答申書を修正する。修正内容については時間も限られているため、事務局一任でも構わないか。
- 【委員全員】異議なし
- 【門松秀樹会長】短期・中期的な面も含めて文言の修正を行い、内容については事務局一任とする。

## 5 その他

- 【渡部菜穂子委員】今回、振興審議会の委員として参加させていただき、とても勉強させていただいた。多くの町民の方に今回の計画を公表する機会を設けても良いと思う。
- 【門松秀樹会長】情報発信として、より多くの町民の皆様へ伝えていくことを検討していただけたらと思う。

## 6 閉 会 19:40 佐藤企画情報課長

円滑に進めていただき感謝申し上げます。それぞれ担当課ですで行っている部分もあるが、頂いた意見を踏まえて現場へ落としとして参りたいと思う。